

## □ アナリスト週間相場予想

	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

## Pick up News

〔注目スケジュール〕	
9/29	ユーロ圏景況感指数
30	ユーロ圏消費者物価速報値 米消費者景気信頼感指数（コンファレンス・ボード） S&P/ケース・シラー住宅価格指数
10/1	ユーロ圏失業率、米ISM製造業景況指数
2	欧州中央銀行（ECB）理事会、米週間新規失業保険申請件数
3	米雇用統計、ISM非製造業景況指数 米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告

## □ テクニカル分析（担当：西 勝之）



チャートは東京ガソリン日足にボリンジャーバンドを付したものである。今前半に揉み合いを演じた78000円所のレジスタンスを本日上値トライしたが抜けきれずに反落、この抵抗帯を上抜くのに失敗した日足となりそうである。ボリンジャーバンドの中心線である20日移動平均線（現在78200円）も緩やかな下降を示しており、確り78000円をブレイクアップしない限りは売り方針で臨みたい。尚、灯油はボリンジャーバンド中心線に届かず陰線、原油も2日前の直近高値に届かず本日陰線引けしそうである。又、チャートには付していないが14本RSIはガソリン以外の2銘柄は下降トレンドをしめしており更なる叩き込みがあるかもしれない。ガソリン買いと灯油売りを組み合わせるストラドルも一考の余地がある。（9/26 17:26現在）

## □ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

米国ではガソリン在庫が1967年以来の低水準に落ち込んだ。これはハリケーン「アイク」の影響によって、製油所の稼働率が過去最低に低迷したことに起因する。また、原油の輸入量も140万バレル（日量）近く減少しており、製油所へのインプットが減った分だけ、製品生産量が減ったことも大きな要因となっている。在庫消化日数は20日を下回り、需給はひっ迫化の傾向を読み取ることができる。しかしながら、こうした在庫事情が相場へ与えた影響は限定的であったようだ。その背景には、景気後退による需要鈍化観測があり、足元の在庫に不足感はあるものの、ハリケーンによる一時的な影響と割り切った見方も存在している。相場が上昇基調にあれば、かなり買い圧力を強めたであろう内容だが、調整色の強い現状では110ドル水準へ向けて買い上がるほどの材料とは思われていないようだ。

手掛かりは何かと多い原油相場だが、冷静に見れば値動きの節々ではやはりユーロ/ドル相場が動いている事実気付く。金融市場は一頃よりはやや落ち着きを取り戻し、改めてドルと商品との逆相関関係に注目が集まってもおかしくはない。ともあれ、まずは米金融安定化法案の行方を見守る必要がある。信用不安が後退すれば、リスクマネーが運用先を目指して蠢き始め、クロス円や商品が買われやすいことは、AIG救済決定後の動きから判断できる。今回も大枠では合意されており、米国側としては週明けのアジア市場オープン前に発表にこぎつけたいとの意向である。短期的にはドル高・円安、対ユーロでは同時にユーロ高が進むことも考えられるだけに、若干の買いポジションで越週することには違和感はない。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。